

## 連続公開ゼミナール授業一覧

<b>■哲学基礎文化学系ゼミナールⅠ（前期水1, 文学部新6講）</b>						
杉山卓史	「芸術分類論」	4月8日	4月15日			
相澤伸依	「セックスを哲学的に考える」	4月22日	5月13日			
山口雅広	「なぜ「告白すること」が哲学的でありうるのかーアウグスティヌス『告白録』への招待」	5月20日	5月27日			
長田蔵人	「カントと自然神学の問題」	6月3日	6月10日			
今出敏彦	「ハンナ・アーレントの『人間の条件』再考ー現代キリスト教思想の可能性を求めて」	6月17日	6月24日			
佐々木崇	「テイラーの宗教論」	7月1日	7月8日			
山内誠	「悪の象徴系ーポール・リクールの象徴解釈学」	7月22日	7月29日			
<b>■哲学基礎文化学系ゼミナールⅡ（前期木2, 文学部新3講）</b>						
鶴田尚美	「動物解放論」	4月9日	4月16日			
大月栄子	「キリスト教教義の成立と教父の思想」	4月23日	4月30日			
林誓雄	「道徳感情論」入門ーD. ヒュームとA. スミスの倫理思想」	5月7日	5月14日			
横田蔵人	「神の存在を証明する「五つの道five ways」ートマス・アクィナス『神学大全』から」	5月21日	5月28日			
大西琢朗	「カリー・ハワード同型対応入門」	6月4日	6月11日			
田鍋良臣	「『存在と時間』入門」	6月25日	7月2日			
長谷川琢哉	「承認をめぐる」	7月9日	7月23日			
<b>■哲学基礎文化学系ゼミナールⅢ（後期水1, 文学部新6講）</b>						
吉沢一也	「現代におけるプラトンの『国家』」	10月7日	10月14日			
佐藤慶太	「『歴史の哲学』の歴史ー20世紀初頭ドイツに焦点を絞って」	10月21日	10月28日			
三宅岳史	「ベルクソンと神経学ー科学万能主義とスピリチュアリズムの関係（19世紀後半フランス）の一例として」	11月4日	11月11日			
守津隆	「西田幾多郎の哲学」	11月18日	11月25日			
堀川敏寛	「西洋思想と東洋思想の間、現代ユダヤ哲学の諸特徴ーマルティン・ブーバーの対話思想を手がかりとして」	12月2日	12月9日			
山本圭一郎	「帰結主義と非帰結主義」	1月6日	1月13日			
<b>■哲学基礎文化学系ゼミナールⅣ（後期木2, 文学部新3講）</b>						
田中美子	「詩人哲学者のひらめき」	10月1日	10月8日			
川口茂雄	「物語る自己」	10月15日	10月22日			
中村健	「徳の倫理学」	10月29日	11月5日			
片上茂樹	「意識の発達段階についてーケン・ウィルバーの初期思想」	11月12日	11月19日			
小城拓理	「ジョン・ロックーその人と時代、そして哲学」	11月26日	12月3日			
水野友晴	「日本の哲学ことばはじめー「哲学」という訳語誕生の背景と明治の哲学」	12月10日	1月7日			
<b>■現代文化学（前期金2, 文学部新1講）</b>						
永井 和	授業の趣旨と現代文化学系の説明、および講師の紹介	4月10日				
山口育人	現代世界と国際通貨	4月17日	4月24日	5月1日	5月8日	5月15日
富永 望	戦後天皇制の発	5月22日	5月29日	6月8日	6月12日	
小林敦子	革命芸術と芸術革命	6月19日	6月26日	7月3日	7月10日	
<b>■現代文化学（後期月3, 文学部新2講）</b>						
田中泉吏	科学哲学への招待	10月5日	10月19日	10月26日		
井上 治	近代日本と伝統芸道	11月9日	11月16日	11月30日		
川寄 陽	朝鮮における「皇民化」政策・戦争動員・言語	12月7日	12月14日	12月21日		